

経済・金融 フラッシュ

2月日銀決定会合:

現状判断を上方修正。改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある

経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 現状判断を上方修正。改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある

日銀は14-15日に金融政策決定会合を開き、政策金利である無担保コール翌日物金利の誘導目標を0-0.1%程度に据え置き(全員一致)、総額35兆円の基金創設による各種金融資産買い入れにも変更はなかった。

現状の景気判断については、足元の輸出や生産の良好な指標を受け、「改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある」に判断を前進させた。判断前進は昨年5月以来、9カ月ぶりとなる。

先行きについては、先月の「景気改善テンポの鈍化した状況から徐々に脱し、緩やかな回復経路に復していくとみられる」から「景気改善テンポの鈍化した状況から脱し、緩やかな回復経路に復していくとみられる」と「徐々に」が削除されている。

リスク要因については新興国・資源国経済の上振れを指摘した。下振れについては「米欧経済の先行きや国際金融市場の動向を巡る不確実性がある」と指摘している。

経済情勢からすれば、日銀は先月足元判断を上方修正してもよかったが、慎重にことを運び今月修正したという印象を受ける。各国中銀ともいままでの一辺倒の緩和から徐々に、逆向き発言・動きが出始めており、日銀もゆっくりゆっくり動き出してきている印象を受ける。

ただし、ゼロ金利解除のトラウマではないが、失敗は許されないという危機感から、判断は今後もかなり、ゆっくり慎重になるだろうと思われる。

日銀にとって早ければ3月(遅くとも4月のFOMC)にも予定される6月までの米QE2に対する判断が最重要イベントになりそうだ。

日銀 景気判断・見通し

年月	景気判断・見通し
2010年2月	現状 改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある
2011年1月	(据え置き)
2010年12月	(据え置き)
2010年11月	緩やかに回復しつつあるものの改善の動きに一服感がみられる
2010年10月(展望)	(据え置き)
2010年10月	緩やかに回復しつつあるものの改善の動きが弱まっている
2010年9月	(据え置き)
2010年8月臨時	(据え置き)
2010年8月	(据え置き)
2010年7月	(据え置き)
2010年6月	(据え置き)
2010年5月	景気は緩やかに回復しつつある
2010年4月	景気は持ち直しを続けている
2010年3月	(据え置き)
2010年2月	(据え置き)
2010年1月	(据え置き)
2009年12月	(据え置き)